

# RS ウイルス感染症ってどんな病気？

## 乳児は特に注意しましょう！

「RS ウイルス感染症」は冬から春にかけて流行する子どもに多く見られる呼吸器の感染症です。名前はあまり知られていないですが身近にいるウイルスです。小さい赤ちゃんほど重症化しやすい病気です。感染力は非常に強く2才頃までにほぼ100%の子どもがかかります。一度かかっても免疫が十分できないので何度もかかります。ウイルスの感染経路は飛沫感染と接触感染があります。潜伏期間は2～8日です。

★ 症状： 鼻みず・痰のからんだ咳・発熱などのかぜ症状がみられます。多くは1～2週間で治ります。25～40%の乳幼児が気管支炎や細気管支炎、肺炎をおこします。夜間急に重症化したり、喘鳴が長く続いたり、かぜにかかったとき喘鳴を繰り返したりする場合があります。生後1年以内、特に生後6カ月以内の乳児や出生体重が小さかった乳児、心臓病がある乳児では重症化することがあります。中耳炎を合併することも多いです。

《急性細気管支炎》 気管支の一番奥の細いところ(細気管支)の炎症です。喘鳴が特徴で呼吸が急に悪くなることがあります。

呼吸困難の症状として

- ① 鳴を伴う呼吸(ゼイゼイ、ヒューヒュー)
  - ② 色が悪い
  - ③ 吸が速い(1分間に60回以上)
  - ④ 骨の下の所がペコペコへこんでるような呼吸(陥没呼吸)
- などがみられます。



[イラスト: 矢野勉]

★ 治療： RSウイルスには特効薬はありません。症状をやわらげる対処療法になります。二次感染のおそれがあるときは抗生物質を使うことがあります。

**家庭で注意すべきこと：** 安静にしてゆっくり休み、部屋の暖房と加湿をおこないましょう。

こまめに水分補給をしてください。おっぱいやミルクの飲みが悪く水分が取れない、ぐったりして顔色が悪い、咳がひどくなって呼吸が苦しそうで夜眠れないときは医療機関を必ず受診しましょう。入院治療が必要なこともあります。

★ 予防・注意： RSウイルス感染症は、保育所などで施設内流行を生じやすいので注意が必要です。

また、家族内感染も高い率で起きます。飛沫や接触により感染するので気道分泌物の付着したものの扱いに注意し、手洗いとうがいを励行してください。